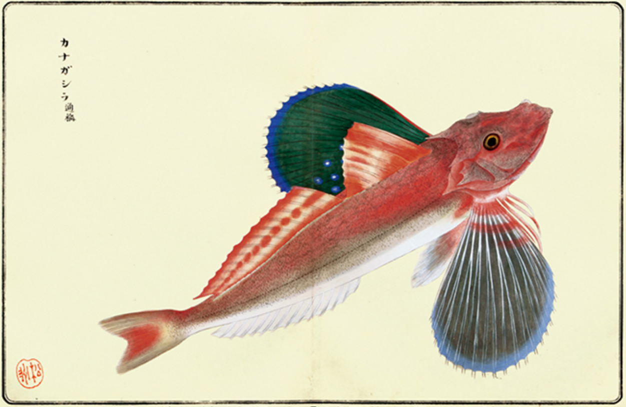
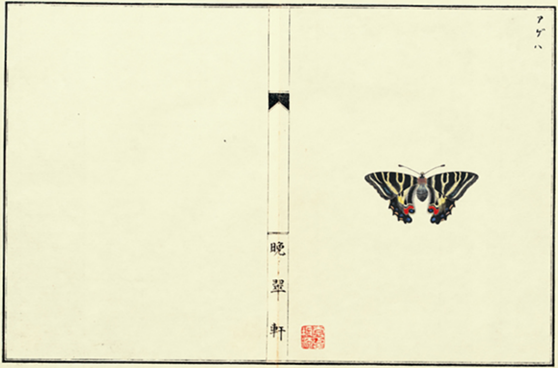
アカモトコ 尾州ノ方言
カサゴ 東京ノ方言
大ナル者大凡ソ一尺強背長ニシテ稍瘠短ク扁ス
頭部大ニシテ吻ヨリ口大ニシテ唇赤ク下顎前方ニ突出シ微
細ナル歯アリ上下両顎ノ中央ニ小歯ナシ其
両側ニ数多鋸歯ヲ生シ大ナリ口内ノ近クニ従ヒ歯牙
前ヲ鋭利ニシ且ツ其数少ナク口蓋及ビ舌骨ニモ
歯牙アリ眼ハ頭ノ細ナル突起ヲ具シ眼ハ大ニシテ凸出
高ク上眼窩縁及ビ鼻骨ニ鋭ドキ棘状ノ突起アリ
其数五六個皆後方ニ向ヘ下眼窩縁ニハ凡一
個ノ突起ヲ見ハス眼下ニ頬肉厚ク且ツ高シ
六部若クハ尖起ス第一鰓蓋ハ後縁ニ五尖ヲ
別ニ第二鰓蓋ハ後縁ノ上部ニ二尖アル
ノミ胸下ニ円ク少ナク胸鰭ハ軟
ニシテ大ナリ胸鰭ハ胸鰭相並ンデ
生ズ一条ノ針ヲ具フ臀鰭ハ
三針アリ背鰭ハ十二条ノ針
連ナリ最モ長シ其針第一ヨリ
第三迄漸次ニ増長シ第三ヨ
リ以下次第ニ短縮ス後背鰭ハ
前縁ニ一條ノ針ヲ具ヘ薄膜ニ
テ前背鰭ト連ナリ尾ハ二尖ニ分レズ
鱗ハ大ニシテ凸突スル腹ハ無ラズ全体
円厚シト雖モ尾柄ハ大ニ細狭ナリ又色ハ
甚ダ多様ニシテ一定セズ然シ大概シテ赤色
ナリ今爰ニ図スル者ハ黄色ヲ帯ブル者ハ赤黄
色ヲ帯ブル者アリ肉ハ白クシテ美ニ且ツ旨ク
鱗ハ背腹ト比シテ小ナリ鰭ハ細ナリ側線及ビ
頭部ハ殊ニ細鱗ナリ然シテ皆ナ円鱗ナリ
其魚水中ニ在ル時ハ色深ク死シテ後ナ紅色漸ク
加ワリテ図ノ如キニ至ルトナリ

アヤメカサゴ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊一」から）

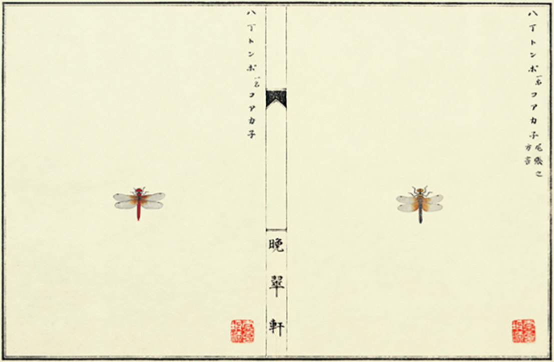


ホウボウ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊一」から）

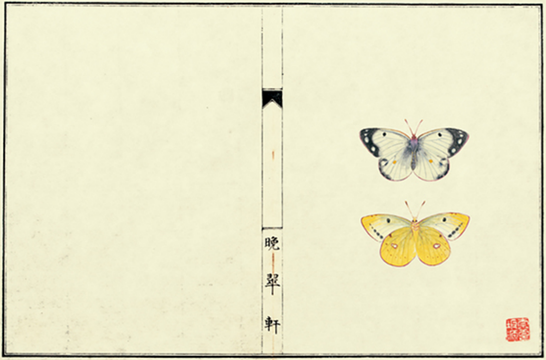
キアゲハ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊二」から）



ギフチョウ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊二」から）



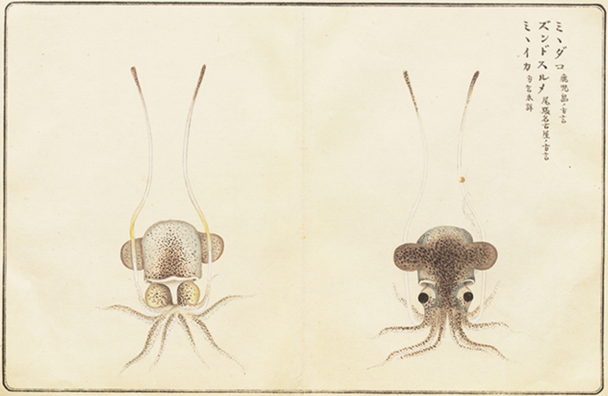
ハッチョウトンボ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊二」から）



モンキチョウ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊二」から）

右ヤマサナエと左オオヤマトンボ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊二」から）

マトウダイ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊四」から）



ミミイカ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊四」から）

ニシキエビ（奈良坂源一郎「蟲魚圖譜　分冊四」から）

名古屋大学医学部前身（愛知医学校）の教諭　奈良坂源一郎による博物画と博物館

Natural history illustrations and museum activities by a professor at Aichi Medical School (the foundation of the School of Medicine)

名古屋大学医学部の前身として愛知医学校が明治時代にありましたが、その教諭の一人である奈良坂源一郎は、医学教育の傍らたくさんの博物画を描き、博物館の建設にも大きく貢献したというユニークな業績の持ち主です。

名古屋大学博物館には奈良坂源一郎が描いた博物画166点が収蔵されています。その多くが魚類や昆虫です。これらは江戸時代の本草画の系譜に連なりますが、西洋医学を身につけた奈良坂の近代科学的観察眼を通して捉えられた生物の像が、幼少時に学んだ狩野派の絵画素養によって、精緻・写実的でありながら芸術的に描き出されているのが特徴です。

また、奈良坂源一郎は動物・植物・鉱物の展覧会を名古屋で3回ほど開催し、博物学を通した社会教育にも熱心でした。その集大成として、明治25年には日本初の私立博物館となる愛知教育博物館の創設に大きく貢献しました。大須にあったこの博物館はその後徳川家に移管され、現在の徳川美術館創設のきっかけになったといわれています。

このように、奈良坂源一郎は名古屋大学の基礎を築いただけでなく、地域コミュニティの社会教育にも大きく貢献したことから、「名古屋文化史上不滅の人」と言われています。

Gen'ichiro Narasaka is a professor in the Meiji era with a unique career combining academic contributions to the foundation of the School of Medicine and Nagoya University Hospital as well as to natural history illustrations and museum activities in Nagoya.

166 pieces of natural history illustrations by Prof. Narasaka are stored in Nagoya University Museum. Most of the illustrations are marine creatures and insects, which are depicted beautifully as well as anatomically precisely. This unique character of Prof. Narasaka's illustrations resulted from his keen observation of specimens as an anatomist and his skill in Nihonga (Japanese-style painting), which he learned from his father.

In addition, Prof. Narasaka led a natural history research group and was active in public education in Nagoya. He organized, three times, public exhibitions of animal, botanical, and mineral collections and raised funds to build Aichi Educational Museum, the first private museum in Japan. The museum was subsequently held by the Tokugawa family and became an impetus for the foundation of the Tokugawa Art Museum today. Such broad contributions in academic, cultural, and educational aspects by Prof. Narasaka deserve wide acknowledgements.

本PDFの著作権は名古屋大学博物館に帰属しますが、画像は広く一般にご利用いただけます。
利用に際しては「名古屋大学博物館画像等利用内規」をご確認の上、遵守をお願いいたします。
http://www.num.nagoya-u.ac.jp/information/use.html